

3

社会科の 学習指導

(社会科教員調査)

【解説】 調査結果から読み取れること

東京家政学院中学校・高等学校校長 佐野 金吾

1. 学習指導の成果

社会科の授業によって生徒がどの程度学力を身に付けたか。このことは教師であれば誰でも気になる。文部科学省が実施した全国学力・学習状況調査や標準テストによって生徒の学力についての客観的なデータは手に入れることはできるが、今回の中学校の学習指導に関する実態調査における「次の項目について満足できる水準の力や態度を身につけている生徒は、どれくらいの割合ですか」は、教師自身が自分の実施した授業によって生徒はどの程度の学力や態度を身に付けたかについての調査である。自分の授業の結果を自分でとらえることは自分の授業を客観的に見ていないと難しいが、授業を生徒の学習状況からとらえることは、授業を振り返り、授業改善に結びつけるために重要なことである。

調査結果では、満足できる水準にある生徒が「7割以上いる」（「9割以上」と「7～8割くらい」の合計）が、

- ① 基礎的・基本的な知識・技能 ————— 40.6%
- ② 知識・技能を活用して課題を解決する力 ————— 13.8%
- ③ 社会に対する関心や学習意欲 ————— 37.9%

となっており、①「基礎的・基本的な知識・技能」の上位の割合が②「知識・技能を活用して課題を解決する力」及び、③「社会に対する関心や学習意欲」のデータに比べると高くなっている。この結果は、社会科の授業が教師主導型の傾向が強いことを示している。授業で身に付けた知識・技能を活用する学習活動をする時間的な余裕がないためか、あるいは高校入試への対応を重視した授業となっているのか、授業の在り方に関する一つの課題を投げかけている。

2. 学習活動への取り組みについて

「次のような学習や活動を、どれくらいの授業で取り入れられていますか」の結果からは、概ねさまざまな学習活動に取り組んでいる状況が読み取れる。

- ① 地図帳の活用 ————— 41.8%
- ② 新聞の活用 ————— 4.8%
- ③ コンピュータの活用 ————— 1.8%
- ④ ワークシートの活用 ————— 42.1%
- ⑤ 図や表の読み取り ————— 46.8%
- ⑥ グループでの話し合い ————— 9.1%
- ⑦ 自分の意見の発表 ————— 35.3%
- ⑧ 小テストの実施 ————— 28.6%

（%の数字は「9割以上の授業で行う」と「7～8割の授業で行う」の合計）

①授業中に地図帳をよく活用しているが、②新聞の活用の割合は低くなっている。この結果は、調査の対象が地理的分野と歴史的分野であることから当然の結果と思われる。公民的分野が対象になれば結果は異なることであろう。③のコンピュータの活用については、毎時間気軽にコンピュータを活用できるほど学校の学習環境が整備されていないことがうかがえる。④はワークシートを高い割合で使用している状況がとらえられ、既出の「基礎的・基本的な知識・技能」の定着と相関関係にあると思われる。⑤の結果は地理的分野では地図や統計資料、歴史的分野では資料図の読み取りの学習が行われている状況がうかがえる。⑥と⑦は授業が教師主導型で行われている結果であろう。⑧は授業時間に余裕がないためか実施の割合は低くなっているが、テストは定期的に実施していることとの関係も考えられる。

3. 生徒の活動と授業について

「次のような学習や活動を、年間でどれくらい行われていますか」の結果はいずれも肯定的な割合が低くなっている。

- ① テーマ学習 ————— 13.3%
- ② フィールドワーク ————— 0.7%
- ③ レポートの作成 ————— 7.4%
- ④ ゲスト講師による授業 ————— 0.1%

(%の数字は「16時間以上の授業で行う」と「11～15時間くらいの授業で行う」の合計)

社会科の授業時数に余裕が無いためか、教師の学習指導観によるのか、このデータだけでは読み取ることにはできない。しかし、生徒が主体的に学習活動をする授業とするための工夫は、知識・技能の定着やその活用、あるいは社会科の学習に対する意欲の喚起ということを考えると重要である。今回公示された新学習指導要領では基礎的・基本的な知識の習得とともに、身に付けた知識・技能を活用する授業が行われるよう社会科の授業時数を増やしている。

4. 生徒の実態と教師の活動

「日ごろ授業をされていて、次のようなことを感じられることはありますか」の結果は、想定している通りの結果である。

- ① 指導の準備にかけられる時間が足りない ————— 89.4%
- ② 指導のスキルを高めるような機会が十分でない ————— 78.7%
- ③ フィールドワークを行う時間が十分にとれない ————— 86.1%
- ④ 授業をどのレベルに合わせて進めればよいか悩む ————— 54.0%
- ⑤ 今の学習指導要領では指導内容が不足している ————— 72.7%
- ⑥ 担当している授業の時数が多すぎる ————— 38.4%
- ⑦ 子どもたちの社会体験が減ってきている ————— 91.1%

(%の数字は「とても感じる」と「まあ感じる」の合計)

生徒が学習に対する意欲をあまり持っていないのは、日常の家庭生活や社会生活から自ら進んで取り組む体験が消失しているからであろう。そのため社会科の授業ではフィールドワークや調べ学習など生徒の主体的な活動・体験的な学習を奨励している。しかし、①、②のように教師があまりにも多忙で、授業を準備する時間もスキルアップもままならない実態があり、生徒の主体的な活動を取り入れる余裕はないと思われる。一方、⑤では指導内容が十分ではないと答えている割合が多いが、指導内容を増やさなければならない根拠は何か。増やせば授業の進め方も早くなるし、教師は一層忙しくなるのではなからうか。年間の指導計画と1単位時間の授業の在り方を根本的に見直し、教師にとっても生徒にとっても充実した授業とすることが重要である。

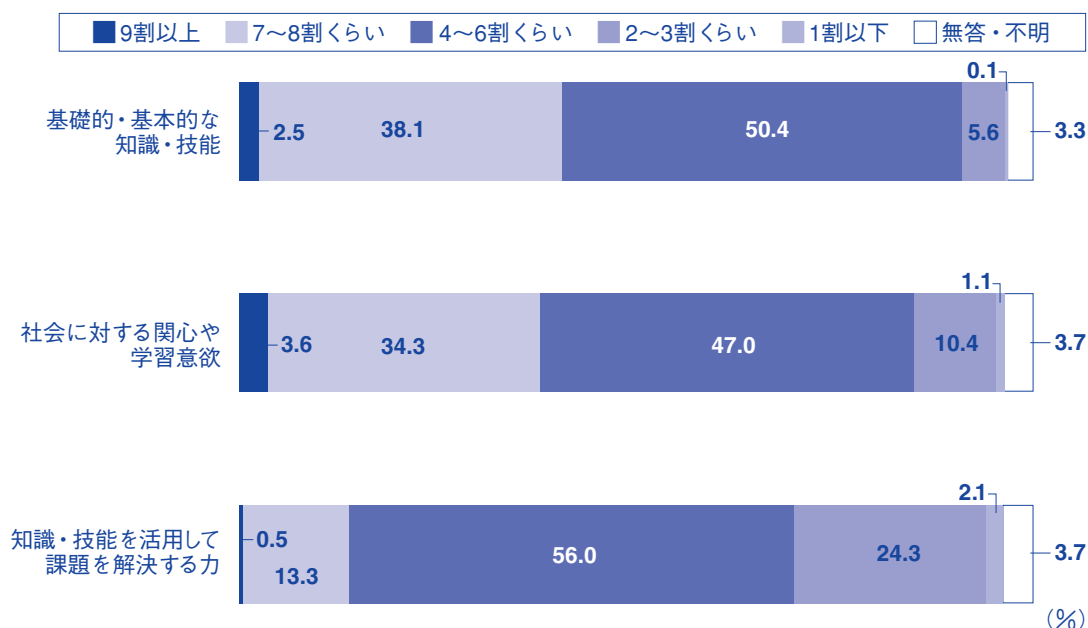
【データ】①生徒の力・意欲について

「知識・技能を活用して課題を解決する力」について、「7割以上の生徒が身につけている」と考える社会科の教員は13.8%にとどまっている。

Q

次の項目について満足できる水準の力や態度を身につけている生徒は、どれくらいの割合ですか。

■図3-1 生徒の力・意欲について



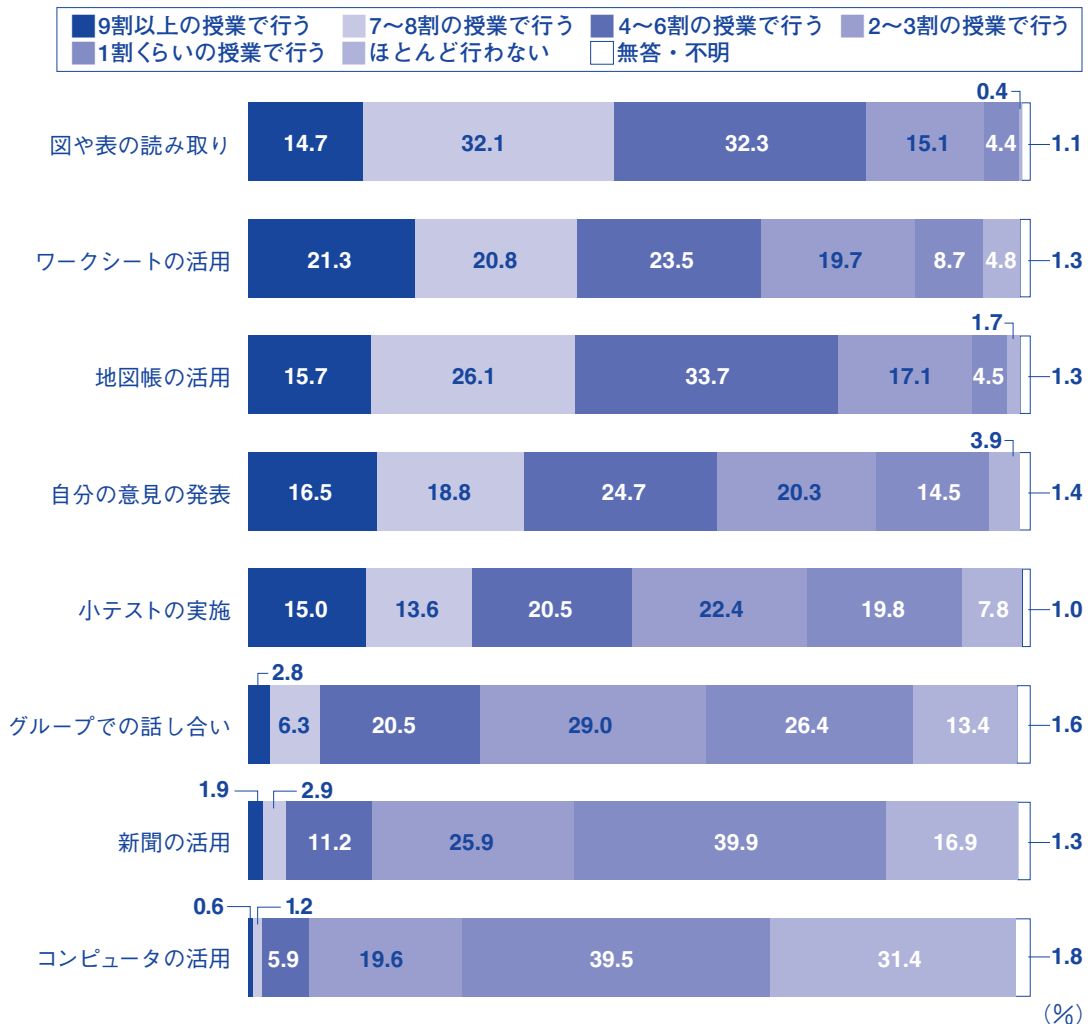
※「十分に満足できる生徒とおおむね満足できる生徒の合計」を想定して回答してもらった。

満足できる水準にある生徒が「7割以上いる」（「9割以上」と「7~8割くらい」の合計）という回答の割合は、「基礎的・基本的な知識・技能」で40.6%、「社会に対する関心や学習意欲」で37.9%であった。しかし、「知識・技能を活用して課題を解決する力」は13.8%にとどまり、活用力の習得については課題を感じている教員が多い。

社会科の授業において、「図や表の読み取り」を7割以上の授業で取り入れていると答える教員の割合は46.8%であった。

Q 次のような学習や活動を、どれくらいの授業で取り入れられていますか。

■図3-2 社会科の学習や活動について・その1

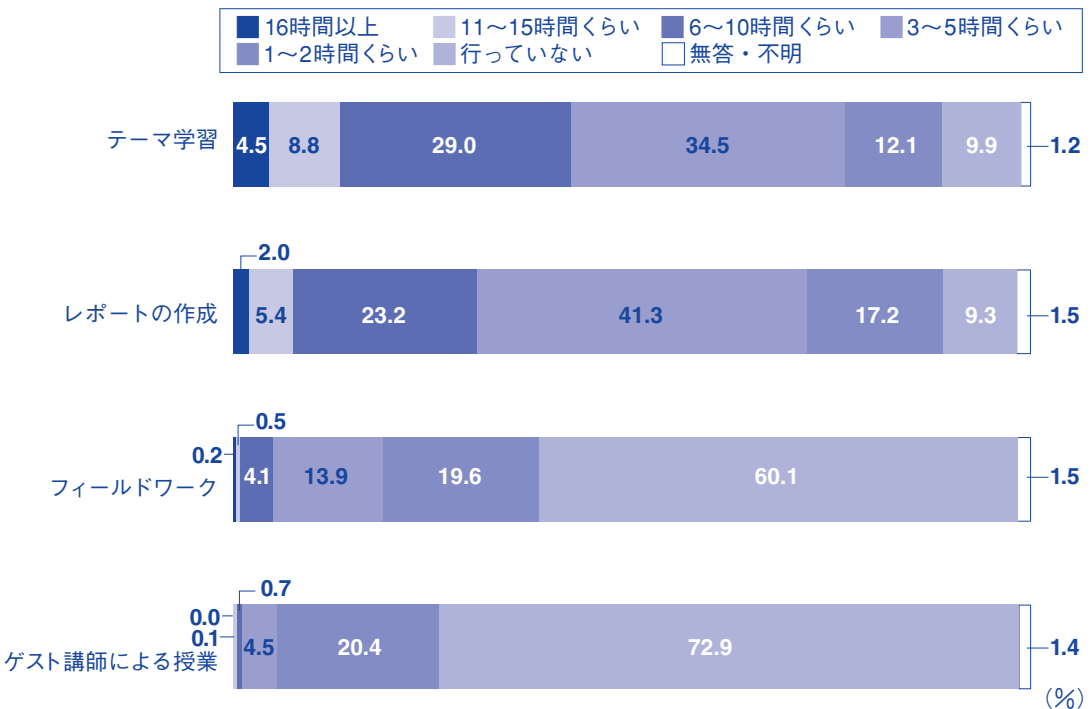


7割以上の授業で取り入れられている（「9割以上の授業で行う」と「7~8割の授業で行う」の合計）という回答は、「図や表の読み取り」(46.8%)、「ワークシートの活用」(42.1%)、「地図帳の活用」(41.8%)の順で多い。一方、「コンピュータの活用」(1.8%)、「新聞の活用」(4.8%)、「グループでの話し合い」(9.1%)などの回答の割合は低く、あまり授業では取り入れられていないようだ。「小テストの実施」は回答結果が分散した。

社会科の授業において、「フィールドワーク」は60.1%、「ゲスト講師による授業」は72.9%が行っていない。「テーマ学習」「レポートの作成」も約1割が行っていないと回答している。

Q 次のような学習や活動を、年間でどれくらい行われていますか。おおよその授業時間数をお答えください。

■ 図3-3 社会科の学習や活動について・その2



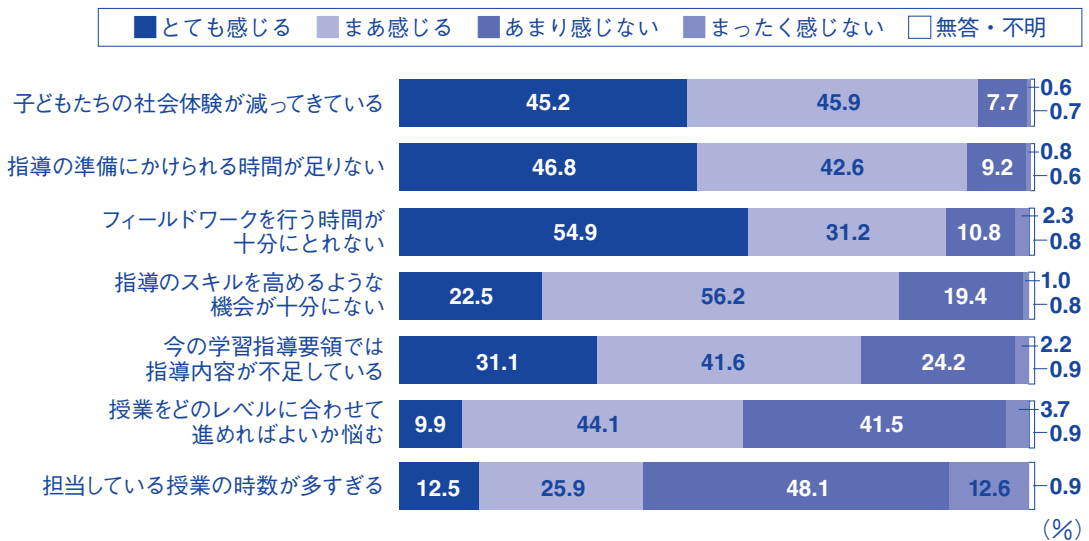
社会科の活動の中で行っている時間が多いのは、「テーマ学習」と「レポートの作成」である。「テーマ学習」は約4割が、「レポートの作成」は約3割が、年間6時間以上（「6～10時間くらい」+「11～15時間くらい」+「16時間以上」）の時間をかけて取り組んでいると回答している。これに対して「フィールドワーク」は約6割が、「ゲスト講師による授業」は約7割が「行っていない」と回答しており、十分な時間がとれていないようだ。

【データ】④ 日々の指導の中で感じることにについて

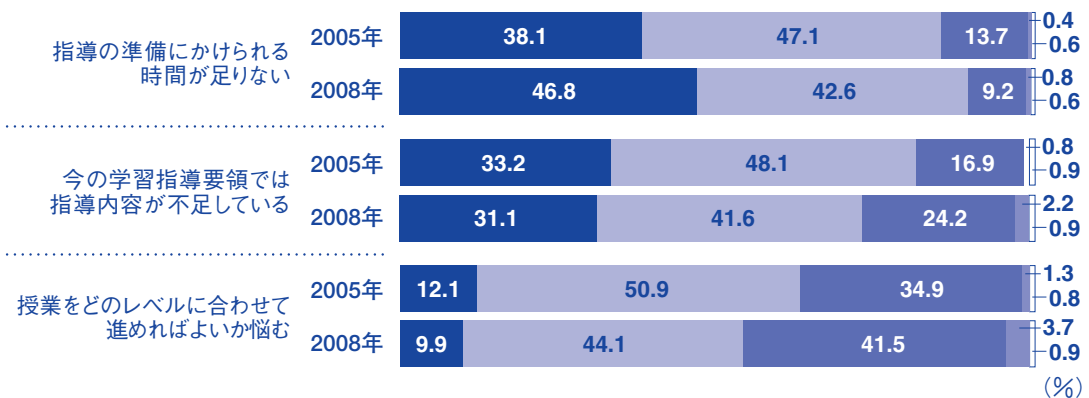
「指導の準備にかけられる時間が足りない」と「とても感じる」教員は46.8%。「フィールドワークを行う時間が十分にとれない」は54.9%、「子どもたちの社会体験が減ってきている」は45.2%が「とても感じる」と回答した。

Q 日ごろ授業をされていて、次のようなことを感じられることはありますか。

■ 図3-4 日々の指導の中で感じることにについて



■ 図3-5 日々の指導の中で感じることにについて（経年比較）



2005年調査と比べると、「指導の準備にかけられる時間が足りない」は8.7ポイント、「とても感じる」との回答が増えている。「まあ感じる」を合わせた数値は、2005年85.2%→2008年89.4%であり、9割に迫ろうとしている。他方、「授業をどのレベルに合わせて進めればよいか悩む」は「感じる」（「とても感じる」と「まあ感じる」の合計）が2005年63.0%→2008年54.0%、「今の学習指導要領では指導内容が不足している」は「感じる（同）」が2005年81.3%→2008年72.7%で、ともに約9ポイント減少している。

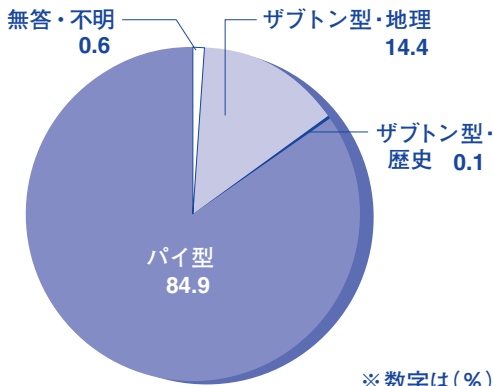
【データ】⑤ 授業の進め方について

1・2年生ともにパイ型が圧倒的に多い。パイ型の中では「1ヶ月や1単元の区切りごとに地理・歴史を交互に行う」が多数を占める。

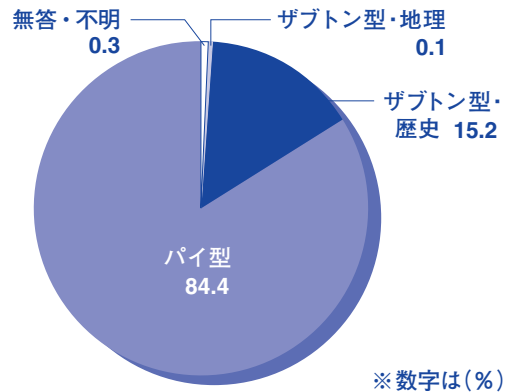
Q 中学1年生（中学2年生）では、どのように授業を進められるご予定ですか。

■図3-6 授業の進め方について

●1年生



●2年生



※「パイ型」=πの記号のように、地理と歴史を1年間のうちにともに学習し、3年生になって公民を扱う指導法。「ザブトン型」=座布団を重ねるように、学年によって1年間地理または歴史のどちらか一方のみを学習し、3年生になって公民を扱う指導法。

SQ 「地理と歴史を両方扱う」に○をつけた場合だけ、お答えください。地理と歴史をどちらも授業で扱われるということですが、具体的にはどのようにされるご予定ですか。

■表3-1 授業の進め方について

	1年生	2年生 (%)
1週間の授業時間で地理・歴史をどちらも行う	6.9	5.7
1～2週間ごとに、地理・歴史を交互に行う	1.1	0.9
1ヶ月や1単元の区切りごとに地理・歴史を交互に行う	71.9	74.7
定期テストごとに、地理・歴史を入れ替えて行う	6.0	5.8
学期ごとに、地理・歴史を入れ替えて行う	2.1	1.6
1年を前半後半に分けて、地理・歴史を交互に行う	12.2	11.3

1年生、2年生ともパイ型が8割程度となっている。1年生では、ザブトン型・地理、2年生ではザブトン型・歴史が続き、それぞれが約14～15%であった。パイ型の指導をしている教員のみになすねた「地理と歴史をどのように指導するか」という設問では、「1ヶ月や1単元の区切りごとに地理・歴史を交互に行う」が7割強を占めている。社会科の授業の進め方においては、2007年以前の調査から、この学習指導の形が多数派であることに変化がなく、実態が確認できた。